

コラム

根羽村の「兆し」

すでにはじまっている、根羽村の新しい村への躍動。
事例の一部をご紹介します

関係人口の増加と多様性の創出

近年、経験とスキルを持つ人材との協働による
関係人口づくり事業や空き家利活用等、
幅広い施策を行うことで、2020年から2022年には社会増、
とりわけ2021年1月には前年同月比10人の人口増となりました。

学校教育・社会教育の充実

2020年より、村の小中学校は小中一貫の義務教育学校「根羽学園」となり、
9年間の学びを通して自ら考え判断し行動できる「自立」を目標とした教育がスタートしました。
それに先んじて2019年からは愛知県安城市からの親子留学受け入れを開始。
2022年には根羽村公営塾「げん」が開塾し、より根羽村らしい教育の実現に向けて取り組んでいます。
また、公民館活動の再構築による社会教育の充実と、これに併せた学びの村づくりも始まっています。

新たな林業の取組、森林を活用した企業連携

薪、ウッドチップ等の未利用材を使った木質バイオマスの活用、木材利用、付加価値創造の先駆的事例となる
「木の布」(木の糸を用いた布づくり)プロジェクト、木の糸事業の展開、森林や流域を通した多くの企業連携などにより、
新たな木材価値の創造が始まっています。

遊休農地の増加

遊休農地の増加により、森と家との境界が近くなったことで獣害が増加していますが、
電気柵防除の実施や獣友会による有害鳥獣駆除を行っています。

青年新規就農者等による新たな農業への挑戦

高品質トマト栽培が2017年から新たに始まり、生産の効率化を図るとともに雇用を創出しています。
研修生を受け入れ、新規就農者の独立につなげるなど、中山間地域の農業を盛り上げています。

役場のあり方の見直し

地域課題の多様化・複雑化により村民への対応が困難になる中、必要な役割・機能の変化に応じた体制づくりを行うため、
役場においても人材確保や各職員のスキルアップを図っています。また、「村づくり集会」の開催など、行政だけ、
住民だけでやれることの限界を踏まえて、それぞれの力や知恵を出し合って考える場や機会が増加しています。

発行者：根羽村

〒395-0701 長野県下伊那郡根羽村2131-1 / TEL 0265-49-2111 / URL <https://www.nebamura.jp/>

発信する情報の多様化と内容の充実

情報ツールの多様化により紙面等による
情報発信だけでなく、
SNS等による情報発信の充実、
CM大賞受賞など、
対外的なPRの場が増加しています。
結果、村のよい評判を
聞く頻度が高まっています。



令和7年(2025年)-令和16年(2034年)

第6次 根羽村総合計画

長野県下伊那郡根羽村

NEBA VISION
NEVER FOREST
いまだかつてない森



基本構想としてのネバーギブアップ宣言2.0+ α

ー新された「ネバーギブアップ宣言」に 産業・交流の視点を加え、基本構想に

村民が主体となり、20年後の夢を描くべく一新した「ネバーギブアップ宣言2.0」は、本計画の中核をなすものです。

ここに、暮らしを支え豊かにする基盤としての「産業」、これから地域の可能性を考えるキーワードとしての「関係人口」の視点を加えたもの($+ \alpha$)を、第6次根羽村総合計画の基本構想として位置付けています。

ネバーギブアップ宣言2.0

つながりがあふれる村へ。

森とともに生き、よりしあわせな人生を歩もう。



根羽村で暮らしていくことを諦めない。

人口減少・高齢社会における、わたしたちの「ネバーギブアップ宣言」。

前提となるあり方

ひとりひとりが互いを尊重し、助け合い、「ともに生きる」関係へ。

・自然や人とのつながりの中に根羽村らしい豊かさを見つけ、居心地の良さを感じられる村へ。

・どこにいても根羽村と心がつながり、根羽村での暮らしをイメージできる情報を発信する。

1-根羽村で人生100年時代をより健やかに

人と社会につながりを持ち、

互いに「心地よい関係」を築くことで心と体の健康を保っていく。

2-つながりがあふれる根羽村

村内外の様々なコミュニティとの交流・つながりを大切にし、

多様なコミュニティの「つながりがあふれる」村へ。

3-知りたいとやりたいを知り合える根羽村

互いに知り合うことで、「知りたい」と「やりたい」から、「分かる」と「できる」になる村に。

4-根羽村に暮らすみんなで学ぶ

大人も子どもも学び合うことから、わたしたちの「可能性」に気づき、自身と村の「誇り」につなげていく。

5-挑戦と応援がかけ合わせる根羽村

大小関わらず「やってみたい」と「応援したい」があふれ、「おもしろそう」と「たのしそう」が実現できる村へ。

6-活かし合い、イキイキと働く根羽村

それぞれの仕事を尊重し合うことで、自身の仕事に「誇り」を持ち、「イキイキ」と働ける村へ。

地域産業方針・関係人口方針

2 地域産業方針 :

「稼ぐ力」を高め、地域の暮らしをゆたかに彩る

ネバーギブアップ宣言2.0の願いを実現するため、地域を支え高める基盤となる産業で「稼ぐ力」を高め、より豊かな村をめざす。



3 関係人口方針 :

多様な「つながり」から、地域を共に創る担い手・パートナーへ

根羽村に興味を持ち、多様なつながりを持つ人々を「関係人口」と位置付け、関わる全ての人とともに新たな視点や活力を増幅させていくことをめざす。



戦略・指針

戦略・指針の全体像

ネバーギブアップ宣言2.0および地域産業方針、関係人口方針を基本に、地域社会のあり方を考えた計画をここでは「戦略・指針」と呼びます。選択と集中により一つひとつの計画の実現を目指しながら、村内のサービス維持を目的とした村づくりを、ソーシャルビジネスの観点も踏まえて進めていきます。

1 住み続けたい村づくり

根羽村らしい豊かさ、居心地の良さを暮らしの中で感じるため村民の健康と将来の暮らしへの安心感を守り、育てることをめざします。魅力的な村の自然・文化とともに、人と人とが支え合う関係性を将来に渡って紡ぎ、つなぐことが、住み続けたい村づくりにつながると考えます。

- 01 健康で楽しく、ともに生きる
- 02 出産・子育てがしやすい仕組みづくり
- 03 人口減少への対応と交流
- 04 安心・安全で、心豊かな生活



2 学びの村づくり

山や森に抱かれた根羽村の暮らしには、豊かな自然とのかかわりや自然を糧にたくましく暮らす人々の「営み(工夫や努力)」や、これから変化著しい社会を生き抜いていくための「学び(知恵や英知)」があります。私たちは、「学びの村づくり」を柱に据え、子どもも大人も混ざり合う学び合いの実践を続けることで「根基(こんき)(教育大綱より)」が育つと考えます。

- 01 新しい学びの創造
- 02 大人も学び手
- 03 学びからの期待



戦略・指針の共通点

つながり、交流

人と社会、人と自然、地域と地域など、多様な関係・つながりを大事にし、
村内外の多様なコミュニティとの交流を図ります。

挑戦

「やってみたい」という挑戦に自ら踏み出すとともに、
その一歩を応援する人や活動を盛り上げます。

3 人と経済が循環する村づくり

人や物、情報やお金の流れを地域内外で巡らせ、「上手に稼ぐ」村の姿をめざします。根羽村の森や環境と、社会経済活動が調和するポイントを常に意識しながら人やモノの流れを生み出し続けることで、住む人、関係する人、風景までもがイキイキと躍動する村づくりを促進します。

- 01 森林を“宝”と思える未来の実現
- 02 農林漁業の推進と鳥獣被害等防除策
- 03 滞在型事業推進や広域連携
- 04 資源を活かしたゼロカーボン推進
- 05 担い手と後継者の確保
- 06 空き家利活用
- 07 環境保全(森林、河川、ごみ、住宅)
- 08 つながりの豊かさを活かした村づくり



共有、発信

より多くの方法でより多くの村内外の「情報や人、機会」に
出会えるネットワークづくりを推進します。

インフラ、DX

暮らしと安全を守り、産業を振興するための基盤となるインフラ整備や
ハード・ソフトを問わない効率化、生産性向上を図るためのDXを推進します。

村の挑戦・プロジェクト

小さな村が単独で動くための力には限りがありますが、小さな村だからこそ素早く、大きな動きをもたらすこともできます。今後5年間、根羽村では見据える希望に向かって、大きな力を持って動かしたいプロジェクトに集中します。大きく動かしたプロジェクトは効率化と絞り込みを行い、次のプロジェクトを動かせる力にしていく——。そんな「挑戦のサイクル」を回しながら、村のより良い未来を描いていきます。



矢作川流域の森づくりから、森林資源の新たな可能性を見出す



学びの村
(教育・中間支援・社会教育)



空き家+関係人口づくり



ゼロカーボン・公共インフラ、エネルギーの自給自足



村内で回るサイクル：
地域内循環による持続可能な村づくり

05